

# 令和4年度 第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

- 日 時 令和5年1月17日（火）午後2時から午後3時5分まで
- 場 所 市庁別館8階 研修室
- 出席委員 五十嵐 潤 委員、池田 右文 委員、水溜 広 委員、中里 雅恵 委員、橋本 百子 委員、米田 政葉 委員  
※吉田 郁子 委員、堀内 美佐江 委員は欠席
- 事務局 池田 和彦 福祉部長兼福祉事務所長、館合 裕之 高齢福祉課長、江渡 聡子 地域包括支援センター所長、島田 拓巳 主査兼社会福祉士、柏崎 雄介 主査兼社会福祉士、山口 誠 主査兼社会福祉士、

## 次第1. 開会

### ■司会（江渡地域包括支援センター所長）

それでは、定刻となりましたので、ただ今より、令和4年度 第2回 八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員が半数以上の出席となっておりますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第5条第2項のとおり、会議が成立することをご報告いたします。

開会に当たり、池田会長よりご挨拶をお願いいたします。

### ■池田会長

皆様、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は、ワークショップなどの活動の中で、皆さんと色々とお話できたことが大変有意義だったと思います。今年も様々な活動の中で、皆さんがやられている活動や、やられてきた活動を通してのお考えをお聞きしながら、より良い方向にもっていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

## 次第2. 委嘱状交付

池田福祉部長兼福祉事務所長より、水溜 広 新委員へ委嘱状を交付。

## 次第3. 議事

### ■池田会長

それでは、議事に入らせていただきます。

#### （1）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について

（1）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局より説明をお願いいたします。

### ■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（1）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、説明させていただきます。資料1-1をお手元にご用意ください。座って説明させていただきます。

ワークショップは、今年度3回目の開催となります。日時は、令和4年10月29日土曜日、13時から15時まで、場所は瑞豊館 農事研修室において開催いたしました。

出席者につきましては、八戸学院大学の学生が1人、民生委員や町内会などの地域関係者が12人、合わせて13人に参加をいただきました。

開催概要としましては、「八戸市の高齢者に関する情報提供」をテーマとして市高齢福祉課職員が話題提供し、続いて「地域包括ケアシステムの解説」をテーマとして八戸学院大学の米田先生から話題提供をしていただきました。

続いて、アイスブレイクを行い、ここからは、八戸学院大学の米田先生に進行をお願いし、会場の雰囲気を和ませる目的として自己紹介を兼ねたレクリエーションをグループのメンバー同士で行いました。

続いて、「豊崎地区における高齢者の見守り体制について考える」をテーマとして、グループワークを行い、「豊崎地区における高齢者の見守り体制の現状」、「課題の整理」、「課題の改善策」について検討し、グループ内で意見交換を行いました。

意見交換の概要として、高齢者見守り体制の現状としましては、

- ・豊崎地区は昔から近隣付き合いが長い傾向にあり、また農家をしている高齢者も多い。
- ・一人暮らし高齢者が隣同士でお互いに気にかけて生活している。

など豊崎地区の高齢化率は、40%を超えており、市内で、是川、南郷、館に次いで4番目に高い地区であり、昔からの付き合いが長いことが伺えました。また、

- ・民生委員や町内の方から気になる高齢者の情報を得ながら訪問している。
- ・町内会活動の集まりの中で、情報共有をしている。
- ・消防団が月2回の見守り時に、車の移動の形跡や家の明かりの状況により見守りしている。
- ・散歩などの日頃の生活の中で家の明かりが点いているかなどの「ながら見守り」をしている。

など町内会、民生委員、消防団、老人クラブなどの団体が高齢者支援センターと上手く、連携して情報共有しながら高齢者の見守り活動をしている話がありました。

また一方で、課題として、

- ・高齢者宅を訪問しても警戒されて出てこなかったり、拒否されることがある。
- ・同じものを何回も食べているなど一人暮らし高齢者の栄養面が心配。

など、気になる高齢者を把握しているけれども、それ以上の関わり方に苦慮している意見が聞かれました。

次のページに移りまして、

- ・高齢者が多い。親戚が近所にいない場合には草刈り、除雪、買い物が大変。

という意見が出ました。

この課題の改善策として、

- ・高齢者の雪かき、除雪などの困りごとは、民生委員、町内会、高齢者支援センターハピネスやくらが相談窓口となり、消防団が雪かき、草刈りなどの対応が可能か見守りネットワークの中で検討してみる。

との意見が出て、今年1回目に行われる、見守りネットワークの中で関係者と相談してみるとの前向きな意見がありました。

今後の取組として、豊崎地区は、下七崎町内会と池田町内会において高齢者見守りネットワークが新規に立ち上がりましたので、その見守りネットワークの活動を通じて高齢者の見守り体制を進めていくこととし、また、下七崎町内会と池田町内会を参考モデルとし、高齢者支援センターハピネスやくらが、高齢者見守りネットワーク新規立ち上げに向けて他の町内へ協議することを継続することとしました。

続きまして、ワークショップに参加された方からのアンケート集計結果について報告させていただきます。資料1-2をご覧ください。

当日参加された13人のうち9人の方からアンケート回答の協力をいただきました。

問1の住まいの地区に関しては、豊崎地区が7人となっており、問2の参加者の年齢に関しては60代が4人、続いて70代が3人となっております。

また、問3の参加者の性別に関しては、男性が3人、女性が5人となっており、問4の参加者の活動内容としましては、民生委員や町内会、婦人消防、交通安全協会、老人クラブなど幅広く参加していただきました。

問5のワークショップに参加した感想に関しては、地域関係者7人、学生1人が「参加してよかった。」の回答であり、次のページに移りまして 自由記述では、地域関係者から、

- ・一人で考えるより、たくさんの意見があり楽しかった。
- ・自分のことでもあるので、自分のためになった。

などの意見があり、学生からは、

- ・豊崎地区の見守りの状況や課題について知ることができ、とても良い勉強となった。

などワークショップに参加したことについて前向きな意見が聞かれました。

また、問6のワークショップの今後の継続に関しては、地域関係者7人、学生1人が「継続すべき」との回答であり、自由記述では地域関係者から、

- ・学生や若い人たちの考え方など、参考にできた交流の場であり良かった。
- ・顔を合わせることで地区が抱える課題などを深めることができるから。

などの意見があり、学生からは

- ・課題について知ることができる場であり、学生も良い勉強になった。

などワークショップを継続することについての意見が聞かれました。

問7のワークショップの改善点に関しては、地域関係者からは、

- ・今後、参加者が増えると色々な意見が出ると思う。

との意見がありました。開催案内やチラシを関係者へ配布するなどして参加を呼びかけましたが、コロナ禍ということもあり参加者は少数ではありましたが、高齢者の見守り支援についての情報共有と具体的な改善策をまとめることができました。

次のページに移りまして、問8の学生がワークショップに参加したことに関しては、

- ・地域関係者から、皆さんから出た意見のまとめ方が大変良かった。
- ・活発に参加し、活動をしてくれた。

の意見があり、学生からは、

- ・地域の現状について直接話を聞くことができる貴重な体験となった。

などの意見があり、地域関係者と学生との良い関係性の中でワークショップを進めることができました。

また、問10の地域から学生に対する協力については、参加した学生から「協力したい」との意見があり、地域での活動について意欲的な意見がありました。

以上、資料1の説明を終わらせていただきます。

#### ■池田会長

今の内容を聞いて、コンパクトに見守りネットワークができている地域だと思いました。この事例をモデルとして他の地域でも取り組むと形になっていくと感じました。米田委員は当日参加されたので、補足や感想などあればよろしくお願いします。

#### ■米田委員

ワークショップに参加してみて、今までの地域と比べてみても繋がりが密接だなと議論を通して印象を受けました。アイスブレイクで自己紹介をした時も、用意していた2つ目のアイスブレイクが要らないくらいに、向こう3軒両隣ではないけれども繋がりが見えており、ネットワークができている。比較的作りやすい地域であるということモデル化するには、特性として理解しておかなければならないところだと思っております。

また、高齢化率の話からでてきましたが、雪かきや草刈りなどは、草の根的なボランティアやサポートの必要性が見えてきた印象です。そこに関しては地域の色々な資源や弊学を始めとした複数の大学のボランティアを動かしながら組織していくことが、これからの継続した支援を考えた時に課題になるのではと考えております。

あとは、学生は非常に勉強になって、これから社会に出ていくので、実際に福祉に携わ

る前の段階で「楽しかった。」とのことで、地域の皆さんと機会を与えていただいた皆さんに感謝いたします。以上、感想と意見とさせていただきます。

■池田会長

今回、コロナ禍ということもあり参加者が少なかったと思いますが、コロナ禍が落ち着いた時に別な場所で行われると、また面白い形が見えてくると思います。皆さん、ありがとうございます。

## (2) 社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について

■池田会長

次に、(2) 社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

(2) 社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について、説明させていただきます。お手元に資料2をご用意ください。

ごみ捨て支援の概要については、自力でごみ出しをすることが困難な高齢者に代わって市内の障がい者施設、主に就労継続支援事業所の職員や利用者が、高齢者自宅から集積所までのごみ捨て支援を行っている取組で、これまで5法人からの協力を得てきましたので、これで6法人目となります。

今回、新たに加わった事業所は、NPO法人ハッピーエンジェル「りんごっこ」となります。対象地区は主に吹上地区とし、対応方法としましては、職員と利用者が、週に1回、ごみ収集日の前日に高齢者宅を訪問して家庭ごみを預かり、翌日所定の集積所に出すという内容で、他のケースを参考に1回につき高齢者が100円料金を支払うことで両者からの了解を得て対応をしております。

ごみ捨て支援に至る経緯としましては、就労継続支援B型の事業所である、「りんごっこ」は、企業からの作業の受託や施設外就労を行っており、日頃から個人宅へのメール便の配達などをしておりました。そこに、市地域包括支援センターが、ケアマネジャーからごみ捨て支援に困っている吹上地区の高齢者がいるとの相談を受け、市地域包括支援センターが、ケアマネジャーと吹上地区に事業所のある、「りんごっこ」と調整した結果、「りんごっこ」から高齢者ごみ捨て支援について対応できるとのことで開始することとなりました。

今後の取組としましては、引き続き、市や高齢者支援センターの生活支援コーディネーターが、高齢者やその家族、ケアマネジャーからの相談を通じて障がい福祉サービス事業所と連携して、ごみ捨て支援を継続して推進していきます。

また、取組の効果としましては、介護保険以外のサービスの促進や、地域の中での互助を基本とした取組を積極的に進めていくことにより、介護保険制度によらない社会資源の開発に結び付けたいと考えております。また、これらの取組が障がい者への就労機会の確保や社会福祉法人による地域における社会貢献にとっても期待できるものと考えておりますので、今後も継続していきます。

以上、資料2の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

社会福祉法人の取組ということですので、五十嵐委員からお願いします。

■五十嵐委員

社会福祉法人に課せられている社会貢献を具体的な形で示すことが難しいけれども、地域の中でこういった活動ができている。それが、介護保険サービスではなくて、地域の中にある社会福祉法人という社会資源を利用した、自主的に自分たちの活動として行っていることが素晴らしいと思います。この活動を進めていくと、各法人が自分たちの法人も何かできないか考えていき、社会貢献をしない法人が、自分たちの使命を果たさなければならぬと危機感を持ち、もっと良い社会になるのではと思います。

■池田会長

社会福祉協議会で色々な活動をしている中里委員からお願いします。

■中里委員

個人宅に訪問することはうちの法人としては、難しいとことはありますが、社会福祉法人がこのような社会貢献の取組をしているというPRは施設などに対してはできるので、この取組が広がっていけば良いと考えています。

■池田会長

委員のみなさんにもお聞きしたいのですが、橋本委員はどうでしょうか。

■橋本委員

高齢者がごみを出せない理由というのは、雪が降って滑るから危ないとか、高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦のみの生活で歩くことが困難な状況の中で生活している方が多いということなのではないでしょうか。

■池田会長

両方に当てはまるのではないのでしょうか。デイサービスに通っている高齢者から「冬場に歩くことが大変。」など聞きますし、実際に、ごみを出す時に転倒して骨折して寝たきりになってしまった高齢者がいる。今の時期が一番転倒しやすいので、お手伝いがあればありがたい。どのように解決するのが必要となってくる。今回から参加していただいている水溜委員からどうでしょうか。

■水溜委員

ホームヘルパーが来て、掃除しながらごみ出しをしている。ごみ出しだけでなく、介護保険サービスで色々なことをやっているように思える。一人暮らし高齢者が歩くことが難しく電気代を払えなかったりするときは、介護に来てくれた方がコンビニに行き支払ったりするなど自然の形でやっているように思える。

■池田会長

介護度がつかない方でも外に出られない方もいるようです。

■水溜委員

民生委員が、雪が降った日に気になって玄関の前を人が通れる分の雪かきをしたり、自分の担当の地域は歩いて回って見ているので自然な形でやっていると思える。

■池田会長

生活の困りごとは、ごみ出しだけではなくて他にも色々あり、今回の話題に出たごみ出しは、生活の困りごとの1つであり、違った困りごとに対しても対応方法がでてくれば一人の高齢者に対して色々な人からのサポートがあり、支え合える形になると思う。

■橋本委員

介護度がつかない方がいるということでしたが、ごみ出しができないのであれば要支援がついてもいいのではないかと。

■池田会長

高齢者の中には介護保険を受けたくない方がいる。困っているけれども介護保険は嫌だと言っている人は多い。その中で気軽に「社会福祉法人の活動で、ごみ捨てであればいいよ。」というのであれば、その人の生活は守られると思っています。

### (3) 第2層生活支援コーディネーターにおける取組について

■池田会長

次に、(3) 第2層生活支援コーディネーターにおける取組について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

(3) 第2層生活支援コーディネーターにおける取組～社会福祉法人による買い物支援～について、説明させていただきます。お手元に資料3-1と参考資料1をご用意ください。

ここでは、市内 12 圏域ごとに高齢者支援センターを設置し、そのセンター内に第 2 層生活支援コーディネーターを配置しておりますが、そのコーディネーターの取組を紹介させていただきます。

社会福祉法人による買い物支援の概要としては、社会福祉法人スプリングの職員が、買い物をするのが困難な高齢者を対象として、法人の車を送迎などで使わない時間帯に高齢者を自宅からスーパーまで無償で送迎し、買い物を支援しているという取組です。

この取組は、大館・東地区高齢者支援センター福寿草の生活支援コーディネーターが法人からの協力を得ながら令和 4 年 11 月から試行的に開始しております。

大館・東地区の特徴としましては、市内 12 圏域の中で総人口、高齢者人口、高齢者世帯数が一番多い圏域となっております。

高齢化率については、八戸市の高齢化率が 31.8%ですので、圏域としては平均的な数となっております。

取組の経緯としては、生活支援コーディネーターが、ワークショップ開催時に大館地区の住民から「坂道が多くて買い物が大変」、「バス停が遠くて買い物が困る」との意見を受けました。その後、高齢者支援センターが買い物に関するニーズがどれくらいあるか把握することを目的として、介護予防教室や高齢者サロンに参加している高齢者を対象に、買い物に関するニーズ調査を行った結果、「送迎サービスがあればいい」などの買い物支援に関するニーズがありました。そこで、買い物支援するための職員や車の確保について、法人からの協力を得て、買い物支援を試行的に実施することとなりました。法人としては、月に 1 回のペースであれば、職員や車を確保することや燃料代について、特に気にすることもないとのことでした。

買い物支援を必要とする対象者としては、法人内施設のオンブズマンの中に民生委員がおり、その民生委員が買い物の困難な高齢者と法人のつなぎ役として、この取組を紹介し、買い物支援につないでおり、そして、その民生委員が買い物の車に同乗し、買い物したものの中で重いものがあれば、車から自宅まで運んでおります。

今後の取組としましては、現在は試行的に実施していますが、状況をみながら他町内にも広げて、来年度も法人として月に 1 回程度の割合で定期的に継続していければとのことでした。

次のページに参考資料 1 として令和 4 年 12 月 19 日付けのデーリー東北の記事を掲載しておりますので、時間のある時にご覧ください。

続きまして、第 2 層生活支援コーディネーターにおける取組～社会福祉法人と企業の共同による参加型イベントの開催～について、説明させていただきます。お手元に資料 3-2 と参考資料 2 をご用意ください。

この取組の概要としましては、法人職員が、法人が所有する車で三八城地区住民を八食センターまで送迎し、そこで八食センターで企画している「八食料理道場」に参加したり、八食センター内のスペースを借りて法人内の専門職を講師に招き、脳トレや正しい歩き方などの「健康教室」を行ったり、「買い物」、や「食事」、「お楽しみ抽選会」などのさまざまな企画を一度に組み合わせた参加型イベントを提供する取組となっております。

この取組は、高齢者支援センターみやぎの生活支援コーディネーターが法人や八食センターからの協力を得ながら令和 4 年 8 月から試行的に開始しております。三八城地区の場所ですが、市内中心街や売市、城下周辺となっており、高齢者率は、他の地区に比べると若干低くなっております。

取組の経緯としましては、令和4年度の高齢者支援センターみやぎの主な重点活動と目標に、地域住民と施設との関係性の再構築や地域企業との連携を推進するというものがありました。また、三八城地区で開催されたワークショップにおいても「コロナ禍で集まる機会が少なくなったので外出する機会をつくる。」などの地域住民から声も聞かれておりました。これらを踏まえ高齢者支援センターに配置している生活支援コーディネーターを含めた法人職員が、八食センターと打ち合わせを重ね、八食センターで買い物など通じて楽しく健康になることを目的とした「八笑ウォーク」を開催することとなり、まずは第1回目に三八城地区の民生委員を招待して試行的に開催しました。

参加した民生委員からは好評であり、この内容であれば、高齢者が楽しく参加できると法人職員が実感し、第2回目からは、民生委員や高齢者支援センターがチラシを配布することにより高齢者の参加を呼び掛けたり、介護予防教室に通っている高齢者に対して参加を促しました。

今後の取組としては、参加した高齢者からの意見を踏まえ、この取組を法人と企業と協議しながら開催していくということでした。

この取組もデーリー東北の記事に掲載されましたが、前回紹介しましたので省略いたします。次のページに参考資料2としてチラシを掲載しておりますので時間のある時に、ご覧ください。以上、資料3の説明を終わらせていただきます。

#### ■池田会長

地域で話をして、問題が出てきて、そのことに対して答えが出てきて非常に流れが良かったと思います。民生委員として水溜委員に買い物支援について買い物難民など携わったことがあればお願いします。

#### ■水溜委員

一例ですが、是川地区にスーパーが無くなったことが話題になり、買い物する為にどこに行けばよいのか、高齢者だけでなく是川地区の方々が買い物に行けないことがありました。その地区の町内会長さんから「大変だ。」「今みたく冬になると交通の問題もある。」という声が聞かれました。

この頃では、移動販売車をよく見かけるようになった。スーパーや個人でやっている業者を定期的に見かけるようになった。民間の移動販売車の取組が多くなったように感じる。

#### ■橋本委員

コープあおもりでは、買い物支援のための無料送迎バスを始めて4月で丸3年目となります。組合員や町内会からの要望で、その始める半年くらい前から試験的に行いました。コースは是川から石手洗、中居林を通過してコープ類家店をまでを1日3往復、あとは鮫と岬台、北高を通過してコープ類家店まで1日2往復の2コースを週に4日運行し、10数名が車に乗ることができます。是川の店が無くなるということで、まずは送迎バスを試験的に行いました。運転手は大型免許をもっている職員がいましたが、休んだ時のことを考えてシルバー人材センターに頼んでおります。

#### ■池田会長

この取組は素晴らしく、全地域にできたら買い物難民がいなくなるのではないかと考えております。介護が必要な人もいるかもしれないので、その時に乗り降りのサポートできる人がいればいいですね。

#### ■橋本委員

最近、組合員から妙を通過してくれないかという要望があり、是川の3便のうち1便を中居林の後に妙を通過してコープ類家店に行くコースができました。買い物してくれる人がいるので続けることができている。

#### ■池田会長

地域包括支援センターがサポートするのと民間がサポートするのと色々な形でサポート

できれば買い物難民の数は少なくなっていくのかなと思います。あと「広報はちのへ」などで周知ができれば、もっといいのかなと思います。米田委員は、今のお話をきいてどうですか。

■米田委員

資料3-1, 3-2は非常に良い取り組みだと思って聞いておりました。資料3-1では、買い物難民もそうですが、交通空白地域の問題も近年、取り沙汰されている中で、ここをさらに発展させていく、例えば北海道当別町ですと、乗り合いタクシーやデマンドバスを高齢者に提供して、マースと呼ばれているモビリティ アズ ア サービス、公共交通などを活用した地域参加の促進、しかも高齢者はスマートフォンを持っている時代ですので場所を検索しながら買い物や医療機関などを、ぐるっと回って繋いでいく、単に買い物するだけでなく発展的に色々なところに行ける形、もちろんお金の問題もあり、他業種が絡んできますので、福祉だけで納まらずに交通系などの部署と調整していくことにはなるけれども、さらに発展していく種になるのではと聞いておりました。そのあたりができてくると、フレイルの予防にも繋がってきますし、広い意味で福祉の枠を越えた健康全体について、高齢者を始めとした日常生活に困難を抱えた方の健康の向上に繋がるので、うまく発展してほしいなと考えております。

■池田会長

その他に皆さんありませんか。

■五十嵐委員

高齢者支援センターが住民ニーズを把握した上で施策にしているところが、すごくいいなあと考えています。介護のニーズは、介護に特化したニーズになってしまう。しかし、これは住民の生活の中でどのようなニーズあるのかというところを高齢者支援センターが把握して施策に繋げる。しかも繋げる先が介護保険サービスではなく、社会福祉法人や企業を巻き込んだことが非常に良いと思います。

■池田会長

サービスで考えたときに色々な方が関わって色々なサービスができるのが理想的な形だと思います。

■橋本委員

資料3-2の介護予防教室に通っているとありますが、これは公民館などで行っているストレッチとかそういったことですか。

■事務局（山口兼社会福祉士）

介護予防教室についてですが、市内12圏域に高齢者支援センターがあり、各圏域に高齢者支援センターが介護予防教室を年間24回以上開催することとしております。対象者は、その地区の住民を対象として、場所としては、各地区の公民館や集会所で開催され、主な内容としましては、専門職から健康に関する講話をしたり、軽運動や楽しいレクリエーションなどを行っております。

■米田委員

資料3-1のニーズ調査対象はどのような方を対象としていますか。

■事務局（山口兼社会福祉士）

高齢者支援センター福寿草がニーズ調査しましたが、対象者は高齢者ほっとサロンや介護予防教室に通っている方で、61人から回答を得たアンケート調査をしております。

■米田委員

潜在的なニーズが、もっとあるかもしれませんね。

#### （４）生活支援コーディネーターの変更について

■池田会長

次に、（４）生活支援コーディネーターの変更について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）



(4) 生活支援コーディネーターの変更について、説明させていただきます。お手元に資料4-1、資料4-2をご用意ください。

市高齢福祉課と12か所の高齢者支援センターに生活支援コーディネーターを配置し、高齢者の生活支援サービスの提供体制の構築に向けて、配食サービスなど生活支援サービスのニーズと提供サービスとのマッチングなどを行っていますが、その生活支援コーディネーターについて変更がありました。

柏崎・吹上地区 高齢者支援センター 八戸市医師会に配置している第2層生活支援コーディネーターに変更があり、立崎さんの後任として社会福祉士の中岫みさきさんとなりました。

中岫さんは、これまで高齢者支援センターの社会福祉士として地域での高齢者支援をしてきている実務経験がある方です。

引継ぎなどにつきましては、これまでと同様に前任者からの引継ぎを行い、後任者が希望する場合については、次に記載されている研修内容を行うことを考えております。

次のページに移りまして、資料4-2に変更後の生活支援コーディネーター一覧を掲載しております。

第1層生活支援コーディネーターにつきましては、高齢福祉課内の地域生活支援センターに配置されている3人となり、第2層生活支援コーディネーターにつきましては、市内12圏域毎に設置している各高齢者支援センターに計24人の生活支援コーディネーターを配置しております。

第1層、第2層の合わせた27人の生活支援コーディネーターが連携して、市内全体の生活支援体制の充実・強化、高齢者の社会参加の推進に向けて取り組んで参ります。

以上、資料4の説明を終わらせていただきます。

#### ■池田会長

ただ今の説明に対して、ご意見やご質問はございませんか。

本日の案件は以上となりますが、他にご発言はございませんでしょうか。せっかくですので、各委員から一言ずつお願いします。

#### ■中里委員

私は、10月29日の豊崎地区で行われたワークショップに見学いたしました。八戸市の社会福祉協議会で豊崎地区に地区社協が設立されていないということもあって、地区社協設立のための懇談会を8月に開催した時に、課題があったり、地区社協を作るとはどうかなどの話も出たり、1回だけでは、「じゃあ、次に進みましょう。」という感じではなかったのですが、10月のワークショップに参加した時に、色々と課題があって、それぞれの町内会、民生委員、消防団など活動されている方もいますし、地域の見守りも昔からの向こう3軒両隣という形で、おかずを持って行くなどの関係性ができていて、それぞれが見守りをやっている感じがしたんだけど、ネットワークというか、集まって、それぞれがどんな活動をしているのか、どういう所が大変だとか、じゃあ、お手伝いしますというところがまだ難しいのかなと感じています。何とか社会福祉協議会でも地区社協を設立して、関係団体が集まって「ネットワークを作ってやっていきましょう。」というところを目指していきたいと思います。改めてワークショップに出て課題も見えたような気もしましたし、メリットもすごく感じられましたので、何とか前に進められるように話し合いを重ねていきたいと思っています。

#### ■橋本委員

地区社協は八戸市内にどのくらいあるのですか。

#### ■中里委員

市内には26の地区社協があります。豊崎地区だけが無く、豊崎地区の方は、「自分のと

ころだけ無いのか。」と話し合いの中で驚いている方もいました。やるとなると、地区の方の中には「仕事がかえって増えるのではないか。」など、まだ前に進めていないところがあり、私たちも豊崎地区を盛り上げていくために、実際に地区社協をやっている所の活動を見てもらったりしなければならぬのかなと思ったり、民生委員の会長とも打ち合わせが必要だと思っておりました。このワークショップは非常にいいなと思っており、課題も見つかри、最後は自分たちで何とかしようという気持ちになって終わっているので、私たち社協でも懇談会をやらなければならないと思っておりますが、なかなかコロナ禍でできないところもあって参考になりました。ありがとうございました。

#### ■池田会長

今話をいただいて、豊崎だけが無かったというのが、びっくりしました。ワークショップの話をしていただいた中で、豊崎が重要な気もするので、地区社協があるということが、これから心強くなるはずですので、これからよろしくお願いします。

#### ■水溜委員

先ほど、名前があった職員は、柏崎地区の担当職員であり、大変お疲れ様でした。

柏崎地区の連合町内会は、各町内会などの諸団体が集まっていて、その方々が、みんなで高齢者を見守るという体制を作っていくと、その職員がチラシを作って各町内会長のところへ歩いて回った。柏崎地区の連合町内会には情報連絡会が年に2~3回ありますが、その時に、その職員はチラシを作って、民生委員だけではなく連合町内会、各町内会長、防犯や体育振興会などの諸団体の方々に、みんなで情報を共有して高齢者を見守りの立ち上げの取組を行ってくれた。どこの地域もそうですが、民生委員とか社協の役員だけではなく、連合町内会などの全体が動かないと高齢者や子供などの見守り体制はやはり難しい。昔から、みんなで見守っていた。隣近所や知らない人でも、「新聞がたまっているみたいだ。」とか、「あっちのおばあちゃんを見かけなくなった。」とか、民生委員だけでなく、みんなが見守っているから自然な形で地域で上手くやっていたと思う。これからは地域の見守り体制はあった方がいいと思う。南郷地区で雪が降れば、みんなで雪片付けをしに行くとか、市川地区とか南郷、豊崎、館とか八戸の外側の地区では、繋がりが強く、声を掛け合っていた。それが、福祉に繋がってくると思う。逆に柏崎とか吹上地区は、隣の人が何をやっているのか分からない。民生委員としては、孤独死などが心配である。

#### ■米田委員

皆さんお疲れ様でした。改めて、地域の力、あるものを活かしていくのもそうですし、改めて繋いでいくということが民間もそうですし行政との連携をしながら、改めて重要だということを確認いたしました。そこにアカデミックな研究という部分でも、だからこそできるということがあるはずですので、そこをどうにか携われるように、努力はしていきたいところですが、まだまだ色々なニーズがあるんだなという所を含めて改めて認識いたしました。幣学では、来年から新しくボランティアのサークルもできる予定です。引き続き、よろしく願いいたします。

#### ■橋本委員

私どものコープあおもりでは、お弁当の配達を行っています。その中で、一人暮らしの高齢者がいらっしゃるの、見守りの活動の一つとしてやっています。それは、例えば、お弁当が残っていたら市に連絡しているので、そういうことが、ますます必要になってくると改めて思いました。ありがとうございました。

#### ■五十嵐委員

社会福祉法人が介護保険事業だけやっていると、対象者が自分たちの事業を利用している利用者だけとなって狭義になってしまう。でも実際は、介護保険料や社会保障に関わる費用は、みんなが出し合っているの、社会福祉法人や介護保険事業者の対象者は、みんなが対象になるものだと思います。今回の福祉に限らず、生活ニーズに対して何をフィッティングしようとしているのか、そういうシステムを八戸市では構築しているということで、ここに参加していることが、勉強となるし誇らしく感じました。引き続きよろしく願いいたします。

池田会長

私からは、皆さんからこのように意見が出たことが良かったと思っております。ワークショップや様々な取組などに素敵な意見をたくさんいただき、ありがとうございます。これをもちまして議事を終了し、進行を事務局へお返しいたします。

## 次第4. 閉会

### ■司会（江渡地域包括支援センター所長）

これをもちまして、令和4年度 第2回 八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。

委員の皆様、本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。